

講演 「デジタル化に関する福岡県の戦略について」

講師 福岡県企画・地域振興部 情報政策課

デジタル戦略推進室 岡 裕大 氏

皆さんこんにちは。福岡県デジタル戦略推進室の岡と申します。今日はどうぞよろしくお願ひします。私は車椅子に座っておりますので、こちらの席から発表させていただきたいと思っております。

本日のお話の流れですが、まず初めにスマートフォンなどいわゆるデジタル化の現在について、県の戦略の策定、それからその一部の紹介、そして県の取り組み事例といったところでお話をしたいと思っております。

まず初めにデジタル化、デジタル機器と言いますと、みなさんスマートフォンなどを思い浮かべられるのではないかなと思ひますが、全国の今のスマートフォンの普及率とは何パーセントぐらいあると思われませんか。全国のスマートフォンの普及率はおそらく 50%は超えているのではないかなと、90%はいつてないかなという感じでしょうかね。

正解は 74.3%です。これは昨年の 8 月時点、総務省の統計資料で、74.3%の方がすでにスマートフォンを持っていらっしゃるということです。要は 4 人に 3 人はスマートフォンを持っているという計算ですけれども、驚くのがこのデータは 6 歳以上なんですね。6 歳以上の 4 人に 3 人はすでにスマートフォンを持っているという状況にあります。右側のグラフに示している通り、年々伸びております。

さあそれでは、今日この会場のスマートフォン普及率はどれぐらいあるかなということで、皆さんにご協力頂きたいと思ひます。

“スマートフォンを持っていらっしゃる方は恐れ入りますが挙手をお願いいたします” たくさんの方が手を上げておられます。ではここでも計算にスマートフォンが登場しますが、軽く 70%は超えますね。お待たせしました、出ました。なんと 94%ですね。

今日のこの会場のスマートフォン普及率は 94.1%ということでございます。全国平均をはるかに超えておりますね。

実は、総務省の統計データは年齢層別のデータもございまして、一番左が 6 歳から 12 歳、次が 13 歳から 19 歳になっていまして、右側に行くほど年齢があがるということです。

70 歳から 79 歳が 53.1%、80 歳以上が 19.2%というふうになっています。

今日の会場が 94.1%でしたから、この一番上の 94.5%になっている、これですね、平均年齢が出ました。今日の会場の平均年齢は 30 歳から 39 歳の 30 代ということがわかりました (笑) 皆さんありがとうございます。

このように全世代で普及が進んでいるスマートフォンですけれども、もういまや最も身近なデジタル機器といっても過言ではないかなと思っております。何が出来るかと言いますと、地図の検索やナビの機能を使ったり、それから乗換案内といつてここからどこかに

行きたい、と検索すれば何時何分の電車に乗ってください、その次の乗り換えはここですよというふうな案内をしてくれます。

私は、先月福島県の会津若松市に出張に行ってきました。どういう経路で行こうかなと調べるのに、やはりスマートフォンを使いました。

会津若松市に行きたいと入力すると即座に何時何分の J A L に乗ってくださいと、次に福岡空港から羽田空港に行き、それから何時何分のモノレールに乗って東京駅に行って、次は東京駅から今度は新幹線に乗り換えて郡山の方に行ってください。それから郡山から在来線に乗り換えて会津若松まで行ってくださいと 10 秒位で出るわけです。それに移動時間はなんと 8 時間 30 分と出るわけです。次にその予約をすることになりますが、旅行も出張も簡単に行くことが出来るような世の中になってきました。

それからプライベートでの買い物ですとか、モノを売ったりする出品販売、こういったことも出来るようになっていきます。それから動画を楽しんだり、映画を楽しんだり、音楽を楽しんだりということで、通勤の途中で、例えば一時間半ぐらいで映画を一本見たりとかもできます。今日はあと 10 時間をきりましたが、夜の 12 時からサッカーがありますね。サッカーの試合も今やインターネットで見ることができます。私はたぶん 12 時に布団の中からサッカーの試合を見ることになると思います。もはやそういう事が出来るような、非常に便利な世の中になってきています。

デジタル化の技術というのは、これだけではとどまりません。更なるデジタル技術の進化というところで、例えば今後こういう事が出来るようになるということで、三つほど提示をしております。

先ほどの乗り換え案内は、10 秒足らずで会津若松までの経路がわかりましたが、ではそれからチケットの手配をどうしたかというと、私は車椅子なので航空会社にまず電話をかけます。車椅子席の予約をお願いしますと、また、J R で東京駅から郡山までの新幹線をとるのには今度は東京駅に電話をかけて、車椅子席をお願いしますと言うわけですがけれども、車椅子席は空いていませんと言われて、もう一回調べ直したりとか、あるいはようやく席の確保が出来たと思ったら、会津若松市の先方さんがその日は難しいので別の日にしてくださいと言われたので、もう一度調べなおして結局 3 時間ぐらいかかりました。チケットを取るだけですが。

今はそこまで大変ですけれども、近い将来は乗り換え案内がずらっと出ると、その横にチケットを手配しますというボタンがついて、ピッと押せばチケットの手配とそれから支払いなど、クレジットカードの登録は必要とは思いますが、支払いまで完了してすぐに旅行や出張に行けるような状態になる時代がすぐそこまで来ています。

あるいは先ほどの映画鑑賞やスポーツの中継でもそうですが、自宅で今はその平たい画面を見るしかないのですが、もっと臨場感のあるようなライブの映像を自宅で楽しめるようになります。こういう風に右側にありましたが、何もゴーグルをかけるのは牛さんだけじゃないのです。人間もこういう風にゴーグルをかけて、臨場感のある体験ができるよう

になると思います。

それから、私はスマホが苦手だし、デジタルはちょっとほど遠いといった方も当然おられるかと思いますが、そういった方も実はデジタルの恩恵を受けることができます。

その一つの例として、役場で「待たない」「書かない」というところがキーワードになっております。何かというと、役場の手続きは書類をもらって、そこで住所とか名前とか生年月日とか書かないといけないですね。でも最近は、マイナンバーカードとか、あるいは運転免許証を持って行ってそこにピッとかざすだけで住所のデータとか登録されていますから、あなたは岡裕大さんですね、粕屋町〇〇の住所ですと自動的に印字されて、あとはサインをする、ハンコを押すだけみたいな状態で、書かない窓口というのを目指そうという動きが全国的に広がっております。県内の自治体の中でも、かなり研究を進めていらっしゃるということを聞いております。

このようにいろんなところでデジタルの恩恵を受けて生活が便利になっていくのです。このITの浸透が生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる、このことを先ほど横山先生からもお話がありましたように、DX、デジタルトランスフォーメーションと言います。ITの浸透が、生活をあらゆる面でより良い方向に変化させるということですね。

次は、「福岡県のDX戦略の策定について」の紹介をいたします。

本県では昨年度末、今年3月末に福岡県DX戦略というものを策定いたしました。

我々は今、県庁のデジタル戦略推進室にいますが、戦略推進室だけではなくて県庁全体で“どのようにDXを進めてどういう姿を目指すのか”といったところを一つの戦略として取りまとめたものになっています。誰もが安心してたくさん笑顔で暮らしていける福岡県を作ることを目標としております。

目指す社会像としては、言葉で書きますと4項目書いてあります。

「生活の分野」、「産業の分野」、それから「人材の分野」、「行政、データ活用の分野」でどのような社会を目指していきましょうかという戦略を作っており、今年度から3か年の戦略になっております。

この戦略の全体像ですが、このような形になっております。

真ん中に県民がおりまして、左上の生活の分野では介護サービスにロボットを導入しましょうとか、あるいは災害が起きた場合には先ほどご紹介にあったドローンを飛ばして物資を運んでいきましょうとか、あるいはオンデマンドバスは時刻表通りに行くバスではなくて、人々の求めに応じて巡回していくバスですが、こういったものを普及して行きましょうなどです。

人材育成の分野ではITを活用して、学習環境を提供したり、あるいは先生のIT力も必要ですので、そういったところの支援をしていきたいと思います、それから中小企業の人材も必要ですね。

そして産業の分野では中小企業の生産性向上も必要ですし、それから人手不足がかなり

叫ばれております農林水産業の中でも、デジタルの力を使って省略化をしていきましょうといった動きや、あとはデータをうまく活用して効率のよい社会を築いて行きましようなどです。

そして市町村役場の中、また、県庁の中でもいろいろデジタルを使って効率的な行政の運営をしていきましょう、と目指す姿を示しているところです。

この DX 戦略ですが、約 100 ページ位のもので、今回はごく少ないですが一部ご紹介をしたいと思います。

まず「生活の分野」ですが、左側からいきます。

「質の高い生活サービスの提供」という中でこちらに書いてありますように介護職員の負担を軽減するというので、ICT とロボットの利活用による介護職員の負担軽減をやったり、e スポーツという言葉がありますが、対戦型のゲームをまるでスポーツ競技のように見立てて全国で〇〇大会とかを開いてみたり、そういった動きが今あります。

それをお年寄りの皆さんに介護予防とか、引きこもりの防止の観点からこういう e スポーツに参加してもらいましょうといった動きです。

あるいは高齢者を見守るということで、お年寄りが一人で暮らしていらっしゃる場合、家の中に何かセンサーを置いたり、あるいは電気のメーターを人工知能で分析をして、ここ 2 ～ 3 日電気の使用量が普段より少ないけれども何かあったのではないかとということで警備員が駆け付けるとか、IT を使って見守りをしていこうといったサービスが考えられております。

先ほどの話に出てきました自動運転車の導入や、オンデマンドバスの活用があげられます。オンデマンドというバスは、様々な人があそこに行きたい、ここに行きたいということをもまず予約するわけですが、その予約をうまく AI が分析をして、これは有人バスですが、どういうルートで回していけばより皆さんが満足していただけるようにお迎えができるかという分析をするなど、そういう世の中を目指しましょうということで、各分野にこのようなサービス提供の絵を描いております。

次は「経済の分野」の中から「観光産業文化スポーツの振興」ということで、これは文化のところ。県民が幅広く文化芸術に親しむ機会を得られる社会を目指しますということで、こちらは、例としましては県立美術館のことが書いてあります。

美術館の作品は当然ながらその場に行かないと見ることはできませんが、県立美術館の方では、“どこでも県美”というコンセプトで、ホームページ上などでデジタル的に美術館の作品を公開して、家の中で、仮想空間での鑑賞体験を行ったり、学校の中ではインタラクティブ、双方向なツールを使って子供さんがこういう文化芸術に触れる機会を提供したり、あるいは子供向けの解説も一緒につけて、学校の先生がどのように指導したらいいですよという指導案の提供を行ったり、いつでもどこでも誰もが文化芸術に触れる機会を提供しますということを目指しております。

また文化資源のアーカイブ化や、デジタル技術を活用した復元、修復ということで世界遺産の沖ノ島は、今、立ち入りがなかなか難しく見る機会もないのですが、デジタル技術を使えば、このように VR のゴーグルを使ってだれもが気軽につけさえすれば、まるで行ったかのように沖ノ島の景観を楽しむことができるということになります。

こういったところを目指して DX を進めて行こうということになっております。

次は、「スポーツの振興」で、新たなスポーツの「する」「みる」「ささえる」の実現です。自由な視点で試合を観戦したり、あるいはリアルタイムでの戦況分析を行ったり、コロナ禍で必要になってくる部分でもあるのですが、混雑状況を観客にリアルタイムで配信するといったような社会を目指します。

それから「ささえる」ということでは、離れた場所でも、アスリートを技術支援したりサポートしたりするような技術を開発し、提供していく。

そして「する」ということでは施設の情報とか、その収集ですとか、どういった施設だったら我々がしたいことが出来るかな、というマッチングをデジタルを使ってやるとかです。あるいはこのバーチャルリアリティとか、センサーやカメラを使って、トレーニングを効率化するというので、この黒い洋服のポチポチがセンサーですが、センサーで体の動きを読み取って、今このフォームだと効率が悪いみたいなことを支援していこうとしています。

それから新たな運動スポーツの機会を提供するということでは、家に居ながらにしてゴーグルやセンサーを使えば、まるで皆さんと競技をしているように運動する機会が得られるということです。

次は「人材の分野」です。人材も高度な IT を開発するような人材もいれば、こういう IT を使う方の人材の育成、支援が必要だということで、先ほどの横山先生のお話とも少し重複しますが、デジタル活用の支援をしていくということになります。

高齢者などデジタル機器の活用に不慣れな方々のために、活用のための講習会を行ったり、セキュリティに関する普及啓発を行うことで県民のだれもがデジタル化の恩恵を受けられるような社会を目指しますということです。

最後に「行政の分野」です。「デジタルで光るスマート市町村」ということで、行政内部の効率化を行いつつ、地域社会でも電子決済の導入とか、先ほどのオンデマンド交通とか、遠隔医療とか、こういった分野でのデジタル化を進めていきたいと思いますということで、いろいろな絵を描かせております。

この戦略に基づきまして、向こう三年間で県庁の方も全庁的に、デジタル施策を進めていきたいと考えております。

次に「福岡県の取り組み事例の紹介」ということですが、我々デジタル戦略推進室で、パイロット事業ということで試験的先行的にデジタルを使えばこんなことができるのではないかとということで、プロジェクトを実施しています。

実は九州北部豪雨で大きな被害を受けました東峰村さんをモデル地域としまして、二つのプロジェクトを行っております。

一つが左側のデジタルイベント、DX イベントです。それから右側がデジタル拠点ということで、テレワークの施設を作っております。それぞれ、ご紹介をしたいと思います。

一つ目の DX イベントについてですが、“デジタルスイッチ福岡”という合言葉を作り、デジタル技術を使ったイベントってどんなことができるのだろうかということで昨年10月9・10日に2日間にわたって東峰村でイベントをしました。

東峰村をメイン会場とし、東京にもう一会場作りまして、そちらと通信できるようにしたり、そのイベントの様子をすべてオンライン、インターネットで公開して、全国の皆さんに見てもらいました。何をやったかということ、大きく三つあります。

小石原焼とか高取焼が有名ですが、コロナ禍で、なかなかそのイベントが開催できなくてお客さんを集客できない状況だったので、人気のタレントさんを数名起用して、タレントさんにスマートフォンを持ってもらい、窯元巡りをしてもらいました。それを全国にライブ配信しまして、“今このホームページから買えます”ということを書いてもらい、購買につなげてもらったという取り組みをやりました。

それから広瀬香美さんは福岡出身ですが、広瀬香美さんが東京のスタジオから生演奏をして、それを全国に配信をしました。それだけだとありきたりなんです、これをスマートフォンで見たら、『自分の好きな角度から広瀬香美さんを見ることが出来る』という体験イベントをしました。

そして VR による東峰村のバーチャル観光ということで、左下のこの図ですね、写真みたいに見えますけれど、これはバーチャルです。バーチャル空間で東峰村の棚田の風景を再現しました。昼間と夜ですが、どうすれば見られるかというと、真ん中に写真がありますが、このゴーグルをかければこの中に飛び込んで 360 度見渡す限り棚田が体験できる状況を再現しました。ここに今ゴーグルをかけているこのお二人ですけど、右がうちの服部知事。左が当時の村長さんです。お二人にも体験いただきました。

その時の動画がありますので、ご紹介します。

こういう形でタレントさんが各窯元を巡って、これを全国にライブ配信をしました。

スマホを複数台使ってうまく切り替えながら生中継をしたということで、結構新しい技術を使っています。このスタジオの広瀬香美さんに向けて何個もカメラをつけて同時にその映像を全国に送るということ。これはゴーグルをかけたときの見た目の図です。こんな風にカメラを、顔を振るとそちらの方向にちゃんと映像も向いてくれて、まるで自分がその棚田の中にいるかのように見えるのです。

これは東峰村の会場でお遊びのバトミントンのゲームをやった時のものとか、アトムが動いたりとかするというのもやりました。当日は東峰村の会場に大きなモニターを用意して、知事や村長さんを含めてゲストをお迎えし、ライブ配信をしながら手元にスマホをお配りして自由な視点で見たいですよ、ということで楽しんでいただいたものです。

このような形で新しいイベントの形を提案するという事で、イベントを行わせていただいたところです。

次はもう一つのパイロットプロジェクト「デジタル拠点、テレワークテラス宝珠」です。テレワークですが、離れて働けるための施設です。

“パソコンとか持ち込みさえすればここで仕事ができますよ”という施設を東峰村の宝珠山地区に、使われてなかった空き診療所を改装して皆さんに無料で使っていただける施設としました。高速のWifiとか、Web会議システムを備えたデジタル拠点と呼んでいます。ただテレワークが出来るだけじゃなくて、住民のデジタル活用の講座、こういったものを実施することで都市部の企業などによるテレワーク施設と併用して、住民の皆さんがデジタルに親しんでいただけるような場としても使っていただけるような施設にしております。

これも実は動画がありますので少しご紹介したいと思います。

これはテレビで放送されたもので、このデジタル拠点が出来たときに紹介するために作ったVTRになります。実はもう一社、東京から入居の企業がありまして、IT企業さんに入らせていただいています。こういうVRゴーグルとか、ドローンとかそういったデジタル機材もふんだんに整備しまして、住民の皆さんが自由に使っていただけるようになっています。

ワーケーションが出てきましたね。動画を見ていただきました。

このようにテレワークということで、企業さんとかテレワーカー、働く人たちのための施設でもあるのですが、住民のデジタル活用を支援していくという目的でも使っております。名付けて、「デジタル寺子屋」ということで、今、毎週水曜日の午後、近くの方々がパソコンとか持ち寄り、ここにもパソコンありますので、ちょっと年賀状の書き方がわからないとか、デジカメ撮ったけど写真の整理の仕方がわからないみたいな、それぞれの課題を持ち寄って講師の人が教えたり、あるいはお互い教えあったりしながら、デジタル活用を進めていく、デジタルに親しんでいただくということを今やっているところです。

説明は以上ですが、このように福岡県ではDX戦略を昨年度策定いたしまして、3年間かけて生活の分野、それから産業の分野、そして人材の分野、こういった各分野でそれぞれデジタル化を進めていきたいというふうに考えておりますので、どうか皆さんのご理解とそれからご協力をよろしくお願ひしたいと思ひます。

長くなりましたけれども今日は以上でございます。ご清聴ありがとうございました。

~~~~~\* \* \* \*~~~~~

司会

「岡様ありがとうございました。それでは質疑応答の時間とさせていただきます。時間関係で一件のみとさせていただきます。それでは所属名と名前をよろしくお願ひします。」

質問者

「本日はありがとうございます。糸島市役所文化課文化振興係の O と申します。美術館コンサート等を担当しております。二点質問がありますが、福岡県でもし周知済みのことでしたら調べ不足なのでご容赦いただけたらと思います。

一点目が、県美のオンラインコンテンツ、すごいと思いますが、実際の美術館でも適応が出来そうな補助等、予定とか、実績とかあればご教授いただければと思います。こちら一点目でございます。」

岡

「それぞれでよろしいですか。こちらの取り組みについては教育庁の取り組みになってまして、一応、“どこでも県美”というコンテンツを県立美術館のホームページに作り込んでいるというふうに聞いていますが、その横展開の可能性については、おそらくちょっと難しいのではなからうかと思っています。教育庁の方に確認しないとわからないかもしれないですね。」

質問者

「ありがとうございます。では二点目ですけども、VR の東峰村バーチャル観光、買い物体験の取り組み凄いいと思います。こちらについて、私ども糸島市ですが、自治体が例えばその検討とかチャレンジできるチャンスがありそうか、それとも福岡県でテレワークテラスの関係もあるから東峰村でやろうとなり今回行われたということであるのか、ちょっとその可能性の問題として有りか無しかを知りたいと、お尋ねしたいと思います。」

岡

「ありがとうございます。こちらのイベント、それからテレワークテラスについては、県のパイロットプロジェクトということで、九州北部豪雨で災害を受けた東峰村をモデルに今やっているところになります。これから実績を踏まえて横展開するときには、是非我々の方から技術的な支援をとということで、この時のノウハウを各自治体さんの方に、お伝えをするという形で横展開をしたいというふうに考えていますので、“うちの市でもやりたいとか町でもやりたい”ということがあればご相談をいただければ、その時のノウハウですとか、こういったことをやるとうまくいったみたいなことを、お伝えすることはできかなと思っています。」

司会

「ありがとうございました。それでは今一度、岡様に盛大な拍手をお願いいたします。ありがとうございました。」